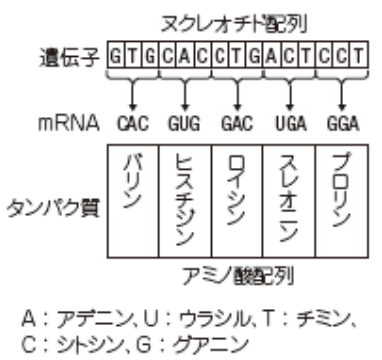
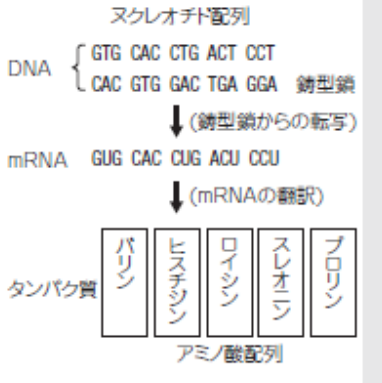




下記の通り訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
<p>p. 66 右欄、「図 4-1 ヌクレオチド、コドン、アミノ酸の関係」 (図の差し替えと説明文の追記)</p>	 <p>ヌクレオチド配列 遺伝子 GTG CAC CTG ACT CCT mRNA CAC GUG GAC UGA GGA タンパク質 バリン ヒスチジン ロイシン スレオニン プロリン アミノ酸配列 A: アデニン, U: ウラシル, T: チミン, C: シトシン, G: グアニン</p> <p>図 4-1 ヌクレオチド、コドン、アミノ酸の関係</p>	 <p>ヌクレオチド配列 DNA { GTG CAC CTG ACT CCT CAC GTG GAC TGA GGA 鋳型鎖 ↓ (鋳型鎖からの転写) mRNA GUG CAC CUG ACU CCU ↓ (mRNAの翻訳) タンパク質 バリン ヒスチジン ロイシン スレオニン プロリン アミノ酸配列 A: アデニン, U: ウラシル, T: チミン, C: シトシン, G: グアニン</p> <p>図 4-1 ヌクレオチド、コドン、アミノ酸の関係 転写では、DNA の一方の鎖に相補的な RNA を作る。この図では、DNA 2 本鎖のうち下側の鎖を DNA 鋳型鎖としている。</p>
<p>p. 86 「4. 外部生殖器の発生と分化」の項、上から 2～3 行目 (用語の訂正)</p>	<p>「～生殖器結節の伸長と性ホルモンによって誘発される間葉および尿道の分化に分類できる。生殖器結節は妊娠 10.5 日に、体幹部から隆起し始める。」</p>	<p>「～生殖結節の伸長と性ホルモンによって誘発される間葉および尿道の分化に分類できる。生殖結節は妊娠 10.5 日に、体幹部から隆起し始める。」</p>
<p>p. 261 「(1) 経口投与」の項、上から 5 行目～8 行目</p>	<p>「～伸ばし食道内を通過させ、やや抵抗を感じるところまで挿入する。注射筒の内筒を引き、空気が入ってこないことを確認し、ゆっくり一定速度で投与する (図 2-6) 。」</p>	<p>「～伸ばし、呼吸困難の兆候がないことを確認しながら、食道内を通過させる。やや抵抗を感じるところまで挿入したら、ゆっくり一定速度で投与する (図 2-6) 。</p> <p>投与後はゾンデを抜き、吐出や異常の有無を確認する。」</p>
<p>p. 325 「(2) NIBS 系」の項、上から 1 行目</p>	<p>「一般財団法人日本生物科学研究所が開発、生産している～」</p>	<p>「日生研株式会社が開発、生産している～」</p>

<p>p. 326 右欄、「図 8-3 ミニブタ各系統の外観」の写真（写真の差し替え）</p>	 <p>サクラコユキ</p> <p>ペローン</p> <p>リハーコ</p> <p>図 8-3 ミニブタ各系統の外観</p>	 <p>サクラコユキ</p> <p>ペローン</p> <p>リハーコ</p> <p>図 8-3 ミニブタ各系統の外観</p>
<p>p. 328 「3. 飼料」の項、上から 5～6 行目</p>	<p>「～<u>日本飼料基準豚</u>（中央畜産会）や各社～」</p>	<p>「～<u>日本飼養標準</u>（農研機構）や各社～」</p>
<p>p. 329 「表 8-6 ブタの監視伝染病」 区分の欄</p>	<p>「<u>届け出伝染病</u>」</p>	<p>「<u>届出伝染病</u>」</p>
<p>p. 329 「表 8-6 ブタの監視伝染病」 家畜伝染病の名称の欄</p>	<p>「<u>水胞性口炎</u>」</p>	<p>「<u>水疱性口内炎</u>」</p>
<p>p. 329 「表 8-6 ブタの監視伝染病」 家畜伝染病の名称の欄</p>	<p>「<u>豚水胞病</u>」</p>	<p>「<u>豚水疱症</u>」</p>
<p>p. 329 「表 8-6 ブタの監視伝染病」 届出伝染病の名称の欄</p>	<p>「<u>豚エンテロウイルス性脳脊髄炎</u>」</p>	<p>「<u>豚テシオウイルス性脳脊髄炎</u>」</p>